

総務常任委員会

7月10日～12日

- 山口県山陽小野田市
- シティセールス推進への取り組みについて
- 山口県下関市
- 安岡沖洋上風力発電計画の現状と市議会の対応について

総務委員会では、「活力と笑顔あふれるまち」スマイルシティ山陽小野田市」をキャッチフレーズに、市のファンを増やす取り組みを行っている**山陽小野田市**と、洋上風力発電所の建設に伴い、反対派の市民と建設業者との間で大きな課題を抱えている**下関市**に伺い行政視察を行った。

山陽小野田市では、市には推進本部を民間には推進協議会を設置し「シティセールス推進指針」を策定、市のファンとして自ら活動してくれる個人団体を募り、積極的なPRなど市を売り込む一体的な活動が、まちづくりに不可欠な底力を感じた。

下関市では、洋上風力発電所建設に反対する市民と建設業者との対立の現況を伺った。

話し合いも行われず肅々と調査が進められることへの反発で、住民が機材を勝手に撤去したことも



山陽小野田市のシティセールスの取り組み

あり損害賠償請求が行われるなど、建設とは別の課題により事態が複雑化していた。担当者の「最初のボタンの掛け違い」から起きていたとの言葉が印象的であった。



「しものせき環境みらい館」にて

教育民生常任委員会

7月10日～12日

- 北海道札幌市
- 子ども発達支援総合センター「ちくたく」について
- 北海道伊達市
- 「だて歴史の杜食育センター」について
- 北海道千歳市
- 「ちとせ版ネウボラ」について

子育て環境への行政支援の実施や、学校給食センターの運営状況の研修のため、北海道の3市を視察した。

**札幌市**では、発達に遅れや障がいのある子ども、心の悩みを抱える子どもに対して質の高い医療・福祉支援を提供する、子ども発達支援総合センター「ちくたく」を視察した。各関係機関が連携を



札幌市の子ども発達支援総合センター「ちくたく」

図り支援を行っていた。

**伊達市**では、「だて歴史の杜食育センター」を視察した。地域17校に年間57万食を提供しており、災害時の炊き出しにも対応し、1日9900食が可能とのことだった。



「だて歴史の杜食育センター」にて

**千歳市**では、妊娠、出産から子育てまで、切れ目のない支援を行う「ちとせ版ネウボラ」を研修した。妊娠、出産、養育などに対して5つのプランを策定し支援していた。

3市の取り組みにおいて共通していることは、施設や事業を立ち上げる数年前から、庁内の関係部署や関係機関との話し合いを十分に行い、事業の方向性や内容を共有していることであり、その重要性を強く感じる視察となった。

産業経済常任委員会

7月9日～11日

- 島根県隠岐の島町
- Uターン促進事業について
- 島根県海士町
- 移住定住政策について
- 鳥取県境港市
- 中心市街地活性化事業について

本市はじめ全国的に移住定住対策に懸命に取り組んでいる、先進地の隠岐諸島など視察、研修した。

**隠岐の島町**の定住促進・Uターン事業では、一昨年96名、昨年92名、官民一体となり自然減を乗り越える社会増をキープしていくかで、各種の対策を講じている。

**海士町**でも移住定住への取り組みが盛んである。町の活性化にはUターン者が必要であるとのこと、5年間で120世帯、202名の移住に結びつき、大半が20〜40歳代であり、移住した方が関わった起業が20事業所に上る。

妖怪ブロンズ像、水木しげるロードで有名な**境港市**の中心市街地活性化事業では、魚と鬼太郎の町づくりで、年間観光客300万人に上り、県境を越えた広域連携の観光などを研修した。



海士町



境港市の「水木しげる記念館」

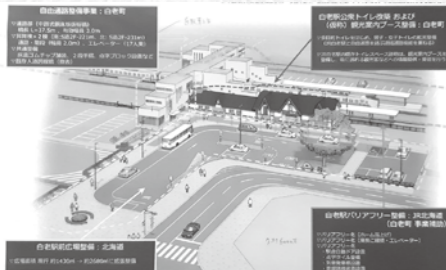
建設常任委員会

7月9日～11日

- 北海道苫小牧市
- 持続可能なまちづくり
- 北海道白老町
- 駅周辺整備事業
- 北海道室蘭市
- まちづくりの取り組み

北海道**苫小牧市**では、「まちなか再生総合プロジェクト」を研修した。事業内容の一例は、空き店舗・空きテナントを活用し、集客に役立つ施設などを開設する事業者に対して、店舗賃借料などの一部を補助している。また、中心市街地に賃貸共同住宅を建設する事業者に対して、ファミリータイプには、1戸当たり100万円を助成している。

**白老町**では、国が白老町の敷地10畝に約200億円を投じて、アイヌ文化複合拠点を2020年4月24日より



白老駅パース



白老駅周辺整備事業(写真左側が工事中の自由通路)

JR北海道が白老駅周辺整備事業を実施している。

本市でも、羽後本荘駅周辺整備事業を実施中だが、白老町は1日の乗客数が3千人を超える見込みということで、駅事業改善交付金が利用できることが特徴的だった。

**室蘭市**では、生活利便施設の集積を生かした居住を進めながら、空き店舗などの活用や、新たな機能の導入により商店街のにぎわいを取り戻し、住み続けられる「ふるさと室蘭づくり」に、官民連携で取り組んでいた。